

そして…2年。

あの衝撃から、混乱と慌ただしさの中、足早に過ぎていった1年。そして、一見落ち着きを見せたような状況ながら、皆それぞれに進む道を模索しつつ懸命に前を向き、一步一步、歩みを進めてきた2年目！

いつの間にか、辺りは春の陽気に包まれ、草木たちがいつもと変わらず色とりどりの花を咲かせています。その可憐で優しく穏やかな表情は、私たちの心の中に知らず知らず積もった疲れをしばし癒してくれます。

気づけば、もうすぐ丸2年。町の復旧・復興は、まだ道半ばです。平成28年12月に策定した復興計画では、平成30年度までを「復旧期」と位置付け、生活や産業の再開に不可欠な住宅、生活基盤施設、インフラなどの復旧に加え、再生・発展に向けた準備を進める期間としています。

未だ震災の傷跡が残る中、発災から3年目を迎える平成30年度は、復旧期の最終年度となります。今号では、復興計画に基づき町が歩んできた足跡を振り返るとともに、現状を見つめながら、早期の復旧・復興に向けた今後の方向を追ってみます。



復興計画に定める計画期間

計画では、復旧・復興を実現するまでの期間10年とし、この計画期間を「復旧期」(3年)、「再生期」(4年)、「発展期」(3年)の3期に分けて目標を設定し、取り組んでいくこととしています。平成29年度は、復旧期の中間の年でした。

- 復旧期**…生活や産業の再開に不可欠な住宅、生活基盤施設、インフラなどの復旧に加え、再生・発展に向けた準備を進める期間
- 再生期**…復旧されたインフラと住民の力を基に、震災前の活力を回復し、地域の価値を高める期間
- 発展期**…新たな魅力と活力ある地域として生まれ変わり、発展していく期間

